

私の中の国際交流

小林 満喜子*

1. はじめに

最近、私は「国際交流」という用語がこれだけ頻繁に使われているのは、日本に独特なことなのではないかと思うようになりました。今まで、国際交流というと、姉妹都市交流とか、外国人を交えたイベントなどがまず思い浮かんでおりました。しかし、実は回りを見渡せば、時代はすでに、交流というのが、機会を作って参加するような特別なものではなくて、日常の中にあるものになっていることに気がきます。仕事上、英語で international exchange と訳すときに、何か違和感を覚えるのです。日本の国際交流は、今、変遷期にあるのではないのでしょうか。

2. 私と外国との出会い

2.1 初めての海外旅行

1980年（昭和55年）、新潟県世界青年友の会の招きで、アメリカ合衆国テキサス州のガルベ斯顿市から5人の学生が来港いたしました。代わりに新潟からもガルベ斯顿市に3人の学生が交換派遣されました。私はその内の1人として、高校1年生の夏休み10日間を、ガルベ斯顿で過ごすことになりました。これが私の海外旅行初体験でした。

2.2 言葉としての英語

小学校の低学年から、近所の英会話スクールで外国人教師について英語を習いました。そのせいか英語は異なる言葉を使った遊び感覚でした。つまり、私にとっての英語は、日本語を解さない先生とのまさにコミュニケーションのツールそのものであり、自然に身につけていったように思います。

3. ボランティアで

3.1 新潟ガルベ斯顿委員会

1965年1月、新潟市とテキサス州ガルベ斯顿市の間で姉妹都市提携が結ばれました。それ以来、民間人往来と文化交流、経済交流も盛んになってまいりました。そして、新潟・ガルベ斯顿両市、さらに世界平和につながる日米両国民の友好促進を願って、この目的に賛同する新潟市民並びに新潟市内の団体が相集い、1981年12月に「新潟・ガルベ斯顿委員会」が設立されました。

1985年には姉妹都市提携20周年記念事業として、記念講座、ミュージックフェスティバル、アメリカ名画会などが開催されました。同年、新潟ガルベ斯顿委員会は「第1回新潟市民友好の翼」をガルベ斯顿市に派遣し、以来、来年2月には第10回目の派遣が予定されております。この間、1995年には姉妹都市提携30周年記念事業の一環として、万代シティガルベ斯顿通りに面した一画に記念のモニュメントを建立するとともに、マルディグラ視察団150名をガルベ斯顿市に派遣いたしました。

私は委員会の設立以来、会員として参加し、現在副委員長を務めております。

*財団法人環日本海経済研究所

3.2 通訳のお手伝い

1988年4月～5月に新潟で開催されたアジア卓球選手権大会および2002年5月～6月に日本・韓国で共同開催された2002年FIFAワールドカップサッカー大会ではボランティア通訳として参加いたしました。

4. 留学して

1999年6月～2000年8月まで、人材育成・経営管理の勉強のため、アメリカ・ボストンの大学へ留学いたしました。ホームステイや海外旅行の経験とは違い、様々な人種が集まり、学生が多く住む、歴史と観光の町で見て感じたものは、それまでの私に「国際交流」という視点を変えさせることになりました。

5. 仕事で

(財)環日本海経済研究所 (ERINA)

北東アジア地域の経済に関する調査研究、国際研究交流、企業国際交流の促進、国際会議、セミナー、シンポジウム等の開催のため、北東アジア各国の中央政府や地方政府、研究組織や民間団体、国際機関などととも、さまざまな取り組みを続けるシンクタンクです。

中華人民共和国 (中国)、朝鮮民主主義人民共和国 (北朝鮮)、日本国 (日本)、モンゴル国 (モンゴル)、大韓民国 (韓国)、ロシア連邦 (ロシア) の6カ国で構成されておりますが、ERINAは主として、中国では東北地方、ロシアでは極東・東シベリアなど北東アジアを対象範囲として活動しています。

これが現在の私の職場です。職場には、ロシア人の部長を始め、モンゴル、中国からの研究者、イギリス人の翻訳担当者がいて、各国語が飛び交う日常です。

6. おわりに

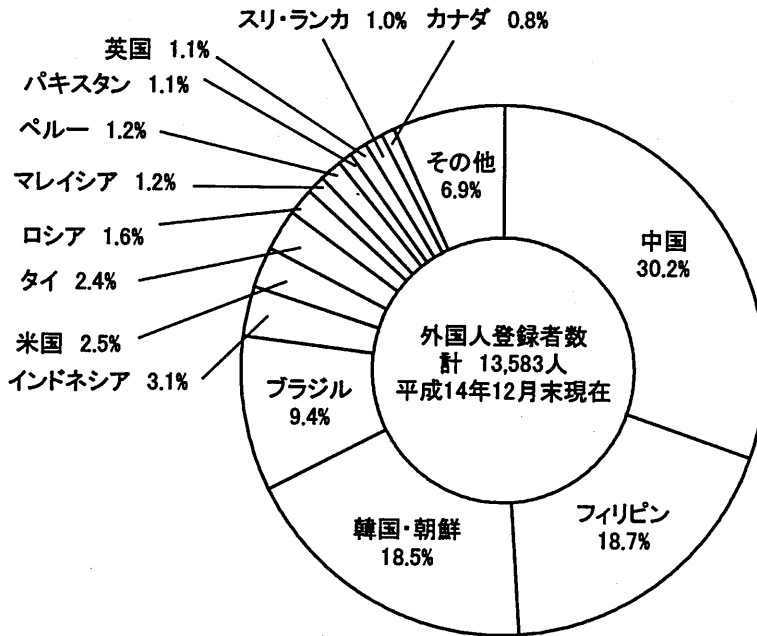
現在、副委員長を務める新潟ガルベストン委員会では、いろいろなイベント (ホームステイ、友好の翼、外国人のお話の会) を計画してもなかなか人が集まらなくなってしまいました。その理由の一つに、海外体験が、以前の「行政・団体」から、「個人」のレベルになっていることが挙げられると思います。

一方で、今年3月、新潟市の国際交流、国際協力団体が意見交換や活動紹介を行う集まりにおいて、あるボランティア団体の代表の方から、活動の大変さ・重さを訴える発言をお聞きしました。曰く、“日本人と結婚している外国人の方からの家庭内の相談 (暴力、離婚問題)、金銭的なトラブル、労働やビザの問題など、ボランティアの手で解決を計るには重過ぎる問題が多い。かといって、公的機関では、法律や慣例に則って処理されるだけで、相談者の身に立つ問題解決の方法は出てこない。”というお話しでした。また、職場のイギリス人女性は、レストランなどで見知らぬ人から英語で話しかけられ、戸惑うことが多いと嘆いております。

国際交流が華やかで特別なものから、少しずつ身近なものになってきていると感じる一方で、日常生活の中で国際的な感覚をもって外国の方の生活や悩みを本当にサポートができるレベルになるには、もうしばらく時間がかかるような気がしております。

<参考資料>

1. 県内の国籍別外国人登録者数の構成（平成14年12月末現在）



資料：「国際交流概要（平成15年度）」新潟県

2. 外国人登録者数の推移

年	新潟県		全国	
	人員数	対前年比 (%)	人員数	対前年比 (%)
昭和 63 年	4,244	115.5	941,055	106.4
平成 元 年	4,583	108.0	984,455	104.6
2 年	4,981	108.7	1,075,317	109.2
3 年	5,987	120.2	1,218,891	113.4
4 年	6,674	111.5	1,281,644	105.1
5 年	7,373	110.5	1,320,748	103.1
6 年	7,974	108.2	1,354,011	102.5
7 年	8,622	108.1	1,362,371	100.6
8 年	9,166	106.3	1,415,136	103.9
9 年	10,120	110.4	1,482,707	104.8
10 年	10,584	104.5	1,512,116	101.9
11 年	10,511	99.3	1,556,113	102.9
12 年	12,307	117.1	1,686,444	108.4
13 年	12,834	104.3	1,778,462	105.5
14 年	13,583	105.8	1,851,758	104.1

資料：「在留外国人統計」法務省

3. 県民の出国者数の推移

年	新潟県		全 国	
	人員数	対前年比 (%)	人員数	対前年比 (%)
昭和 63 年	79,000	125.5	8,426,867	123.4
平成 元 年	93,159	117.9	9,662,752	114.7
2 年	108,248	116.2	10,997,431	113.8
3 年	109,897	101.5	10,663,777	96.7
4 年	130,696	118.9	11,790,699	110.9
5 年	128,130	98.0	11,933,620	101.2
6 年	148,163	115.6	13,578,934	113.8
7 年	170,383	115.0	15,298,125	112.7
8 年	177,363	104.1	16,694,769	109.1
9 年	179,392	101.1	16,802,750	100.6
10 年	157,144	87.6	15,806,218	94.1
11 年	155,925	99.2	16,357,572	103.5
12 年	168,589	108.1	17,818,590	108.9
13 年	152,672	90.6	16,215,657	91.0
14 年	154,352	101.1	16,522,804	101.9

資料：「出入国管理統計年報」 法務大臣官房司法法制調査部編